

民報

あばしり

NO.1014
 2015・4・5
 発行所
 日本共産党
 網走市委員会
 網走市北八西三
 電話 四三三・四四五八
 F 四三三・四四五七



全道一高い国保料を引き下げよう!

網走市の国民健康保険料は、一人当たり11万824円で全道34市の中で一番高くなっています。この4年間で、市民団体の国保料の引き下げを求める請願・署名活動もあり、平成23年度に1世帯当たり平均4110円の引き下げがなされました。

しかし、翌年から3年連続保険料が引き上げられ、現在、国保料の最高限度額は医療分51万円、介護分14万円、後期高齢者支援分16万円で合計81万円にもなります。

「日本共産党議会だより」NO29号を発行!

かつて北海道の主要10都市で最高だったのは旭川市です。しかし、今は5年連続で保険料が引き下げられ、所得200万円の3人世帯では8万2000円もの引き下げとなりました。今では低い方から4番目です。

全国的にも保険料引き下げを実施している自治体は多数ありますが、いずれも一般会計からの繰入で実施しています。

共産党網走市議団も、一般会計からの繰入で保険料の引き下げを求めてきましたが、網走市は「市民の公平性に欠く」との理由から実施していません。

引き下げを実施できると主張しています。旭川市のように、市民運動を広げ国保料引き下げを実現させましょう。

日本共産党議員団は、議会で議論されている内容やそれが市民の願いとどう結びついているかなどを市民のみなさんにお知らせするために「日本共産党市議会だより」を発行し続けています。

今回も第1回定例議会(3月予算議会)が終了しました。通算で29号となります。間もなく市内全域に「経済の伝書鳩」に折り込んで配布する予定です。

今回の内容は、飯田敏勝議員が行った代表質問と反対討論を中心に紹介しています。是非ご一読ください。

日本共産党市議団は、これからも、市民のみなさんと連帯し、願い実現のために全力を尽くします。

ご意見等がありましたら、是非お寄せ下さい。

活動と紙面の充実に役立たせていただきます。

医療・介護の請願書が採択

2014年12月議会にオホーツク勤労者医療協会労働組合から提出されていた「安全・安心の医療・介護の実現、医療・介護従事者の大幅増員と処遇改善を求める意見書」の採択を求める請願が、3月5日の生活・福祉委員会会で再度審査されました。前回、継続審査を主張していた会派が賛成したため請願が採択になり、内閣総理大臣をはじめ関係各省庁に送付されました。

菊地ひろし まっしぐら!

知事選挙が始まり、選挙への関心も少しずつ高まってきました。地域を訪問していると、「選挙には行きたいのだけれど、体がこんなだから行けないよ」と話される方がおられます。公職選挙法・施行令等には郵便で投票が出来るのは、「身体に重度の障がいがある人及び要介護5の人」となっています。しかしそこまでには至らないけれど、一人暮らしをしているので、選挙の投票へ行くことが無理な方は私の周りにも見られます。

自宅からの介護や移動手段の確保など、有権者の選挙権の行使を保証することを、様々な角度から考える必要があるのではないかと思うのですが、みなさんはどう考えますか?

雪道有難メロ

先日、地域の後援会員の自宅を訪問すると、苦情が寄せられました。「市で歩道整備をしたが見てみないと、歩道が波打っているんですよ。これで工事完了とします。これで工事完了とします。これで工事完了とします。」

いえるのか。まだ、半年もたたないのに、この状況をどう思うのか」と厳しく指摘されました。その方は、土木作業に携わったことがあるそうで、詳しく教えていただきました。確かに、よく見るとお怒りになるのも理解できました。

まだ、歩道に雪が残っているの、歩道の全体は十分確認ができませんので、雪解けを待つてじっくり調査をしたと考えています。このように、地域を訪問すると地域の要求や市役所、議会への意見などが多く聞くことができます。たまには、きついお叱りも受けることがありますがお叱りやご意見を心に刻みながら活動をしています。

流水

北海道から政治の春を 知事選・札幌市長選に続き、道議選・札幌市議選も告示です。党候補が全員当選したら、どれだけ政治が変わることか! わくわくするたかいたに、私も時間の限り候補の応援にまわります。▼私が党北海道委員会に勤務したのは十五年前でした。その前年の地方選で日本共産党が躍進し、道議六人・札幌市議十一人と過去最高を記録。当時は青年の就職難が社会問題化し、私も道議会に青年たちと要請に行ったものでした。日本共産党の議員室は、事務局員の部屋と、その奥に議員の部屋と二つあったような記憶があります。どの議員と相談したらいいのかわからずドキドキしたものでした。

▼いま思えば恥ずかしいぐらい、つたない私の話にも耳を傾けてくれる議員の姿に触れて「やっぱり日本共産党はすごい」と思いました。それから十年余、悔しいことに選挙のたびに議席と質問時間が減って、ただ国会・地方議会でも苦勞してきたことか。自分が議員になって、その意味を痛感しました。聞いてきた声を代弁できないと、こんなに悔しいことはないのです。▼総選挙で議席を伸ばしていただきました。国会では間違いなく、日本共産党の存在感が大きくなっています。今度は地方選挙の番! 北海道・札幌市を変えましょう。くらしと平和を守る日本共産党が伸びれば、政治に声が届きます。安倍政権の暴走に、地方からストップをかける大きな力になります。読者のみなさんのお力添えを、心からお願います。

日本共産党衆議院議員 畠山和也

